

## 22 医療社会福祉部



医療社会福祉部には、社会福祉士や精神保健福祉士の資格をもつソーシャルワーカーが現在8名在籍し、患者さんが抱える療養中の様々な課題への支援を行なっている。また、がん相談支援センターや認知症疾患医療センターにソーシャルワーカー各1名を配置し、専門の相談支援を実施しているほか、医療支援センターの兼務業務として患者サポート体制充実加算相談窓口の対応も行なっている。

ソーシャルワーカーの支援内容は、転院や在宅調整などの退院支援、訪問診療や緩和ケア病院等の受診・受療援助のほか、経済的問題、育児・介護や家族関係に関わる支援、就学・就労等の社会復帰支援など多岐にわたる。

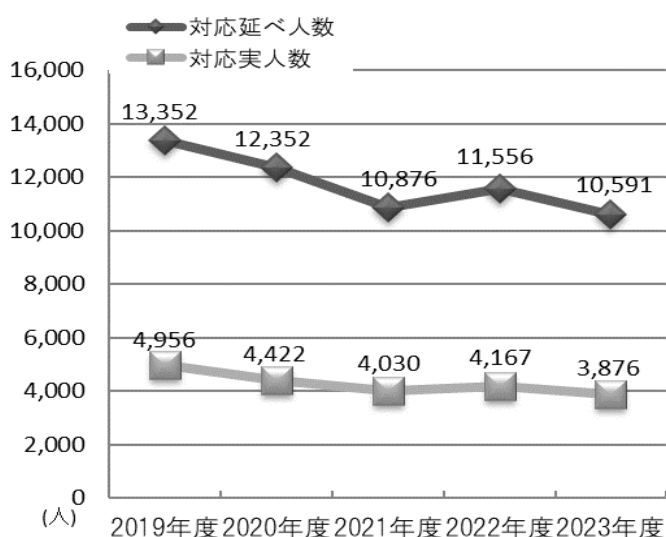
2019年度以降対応実人数・対応述べ人数ともに減少してきているが(22-1)、新型コロナウイルス感染症の影響含めその時々院内外の状況や、診療科及び部署の体制など様々な要因が影響して変化しており、2023年度が2019年度以降最も少なくなっている大きな要因は定かではない。

支援内容の構成比率は例年とほぼ変わらないが(22-2)、退院支援の占める割合が年々わずかに増加しており、病棟担当制によって、退院支援担当者と多職種との密な情報共有や支援を要する患者のスクリーニングを早期から行えることなどが影響していると思われる。診療科別では、脳神経外科の対応延べ人数が例年通り最も多く、全診療科の3割を占めている(22-3)。

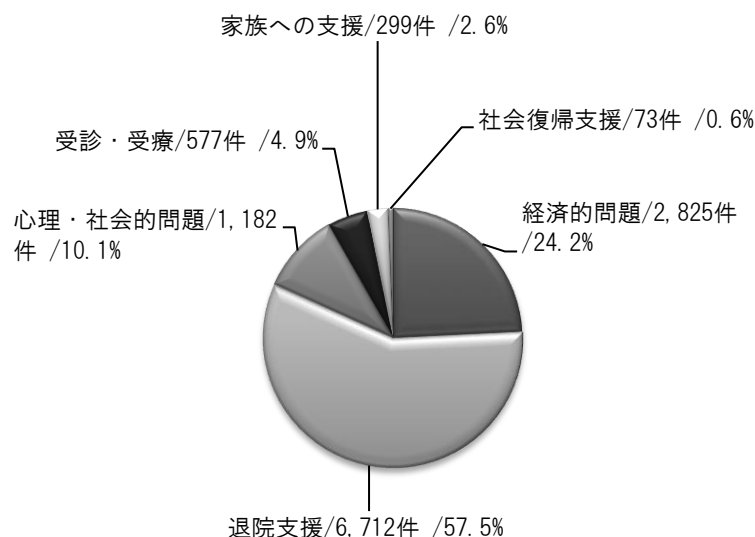
近年の試みとして、診療報酬に関わる加算等の社会福祉士の専任配置や、AYA世代がんサポートチーム等の様々な医療チームに参画し多職種連携を実施することにより、患者さんの背景にある社会生活をも包括した医療の提供につなげられるよう努めている。

今後も、社会情勢に応じ、幅広い対応ができるよう支援の質の向上を目指し、他職種・他機関と協働しながら、社会福祉の視点から患者さんの療養生活の質を高められるよう努めていきたい。

22-1 対応人数の年度別推移



22-2 2023年度支援内容の構成比率(合計11,668件/対応述べ件数)



22-3 2023年度 診療科別・対応延べ人数

区	分	件数	構成比率 (%)	区	分	件数	構成比率 (%)
循環器内科		741	7.0	心臓血管外科		195	1.8
血液内科		952	9.0	呼吸器外科		162	1.5
アレルギー・リウマチ内科		52	0.5	整形外科		37	0.3
糖尿病・内分泌・代謝内科		7	0.1	形成外科		1	0.01
肝・胆・膵内科		47	0.4	脳神経外科		3,188	30.1
消化管内科		162	1.5	皮膚科		1	0.01
呼吸器内科		223	2.1	泌尿器科		89	0.8
脳神経内科		325	3.1	産科婦人科		435	4.1
腎・透析内科		110	1.0	眼科		77	0.7
小児科 / NICU		581	5.5	耳鼻咽喉科・頭頸部外科		461	4.4
肝・胆・膵外科		8	0.1	放射線科		5	0.05
小児外科		7	0.07	歯科口腔外科		73	0.7
上部消化管外科		13	0.1	麻酔科・疼痛制御科		23	0.2
下部消化管外科		795	7.5	救命救急センター		1,351	12.8
炎症性腸疾患外科		309	2.9	精神科神経科		63	0.6
乳腺・内分泌外科		61	0.6	その他		37	0.3
				合計		10,591	100.0